

革新する技術、創造する未来 ～夢へ翔る 熊本高専～



題字:校長 宮川英明

熊本高専だより

第4号

平成22年12月



今号のテーマ

国際交流 / 国際化教育



CONTENTS

- | | | | |
|-----------------------------|---------------------|-------------------|--------------------------|
| ◆ 巻頭のことば …………… 1 | ◆ インターンシップ報告 … 10 | ◆ 委員会等より …………… 15 | ◆ News & Topics …………… 21 |
| ◆ 国際交流/国際化教育 … 2 | ◆ 秋の行事から(学生行事) … 11 | ◆ 研究紹介 …………… 18 | ◆ 学校行事・編集後記 … 裏表紙 |
| ◆ 高専体育大会&
ロボコン/プロコン等 … 5 | ◆ センター等行事 …………… 13 | ◆ 諸だより …………… 20 | |

本校と国際化教育について

副校長 神田 一伸

「留学生10万人計画」をご存知ですか？今から25年程前、日本が打ち出した留学生獲得の施策です。当時、日本は最先端技術に支えられて世界をリードする立場でした。丁度その頃アジア諸国でも経済発展の兆しが見えていました。彼らは自国の更なる発展を目標に人材育成に力を入れており、この政策による日本への留学生は2003年に目標の10万人に達しました。現在、日本では「留学生30万人計画」を実行中です。世界を見てみると、2020年には留学生総数は600万人になると予測されています。30万人はその5%です。この計画は文科省により策定され、日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界の間のヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として位置づけられています。この目標を達成するためには受け入れる教育機関のグローバル化はより重要な課題で、カリキュラムの工夫や、様々な国際交流のプログラム、留学生受け入れシステムの整備が必要となってきます。



熊本高専では教育理念に「専門分野の知識と技術を有し、技術者として人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者を育成する」また教育目標の一つとして「日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者」を謳っています。21年度から活動を始めたPBL・総合教育センターの国際化教育推進事業部が中心となって進めている「国際化教育プログラム」によれば、1～2年で「一般素養の獲得」3年で「実用英語の経験」4～5年で「国際交流の実践」専攻科で「国際性に優れ、英語を使える高専生」の目標を掲げて事業を推進中です。

一般的に国際化教育の基本は ①英語によるコミュニケーション ②日本人としての基本を身につける、つまり日本の文化を外国人に伝えることができる ③お互いを理解しあうための意思の疎通ができると言われていています。高専の5年間、専攻科に進めば7年間の学生時代を通して、じっくりこれらをマスターしてもらいたいと願っています。

高等教育機関（大学・高専）の組織である、高等教育コンソーシアム熊本でも、留学生の倍増を計画しています。多くの留学生が過ごしたくなる都市としての熊本はどうあるべきか？熊本への留学のメリットは何か？など留学生の勧誘から、日本への留学の円滑化、教育機関のグローバル化（魅力ある学校づくり）、受け入れ環境の整備、卒業後の社会の受け入れ（就職）の推進など課題もありますが様々な働きかけを行っているところです。

将来の高専では、各クラスに2割以上の留学生がいて英語での会話が一般的となり、講義も英語という時代がくるかも知れません。これからますます重要度を増す「国際化教育」しっかり取り組んで行きたいと思っています。

熊本高専における国際化教育の取り組み

PBL・総合教育センター長

松本 勉

熊本高専発足と同時に、PBL教育事業、キャリア教育事業、国際化教育事業、科学技術教育支援事業の4事業を推進すべく、PBL・総合教育センターが発足し、当センター発足以来約一年、それぞれの事業が活発に行われています。国際化事業部では、国際化教育を本校学生に提供することを目的とし、さまざまな取り組みを行ってきました。短期留学生の受け入れおよび派遣、外国人講師の招聘、英語キャンプ2010、海外研修旅行など、世界と本校学生をつなぐ取り組みを行ってきました。

教職員を対象とした取り組みとして、9月28～30日に鹿児島にて第4回国際工学教育研究集会（ISATE2010）を開催し、国内外から多くの技術教育者に参加いただきました。この研究集会で、新しい授業の方法や取り組みに関する発表、英語教育に関するパネルディスカッションが行われ、国際化教育および技術教育に関し様々な視点から活発な議論が行われました。今後当センターでは様々な4事業に関連して九州沖縄地区の拠点事業を展開して参ります。



熊本キャンパスの取り組み

国際化教育事業部長

嶋田 泰幸

教育理念に掲げている『国際的素養と応用力を身に付けた活躍できる技術者』の育成に向け、熊本キャンパスでは積極的に国際化教育に取り組んでいます。短期留学生も積極的に受け入れており、今年フィンランドから3名、シンガポールから4名の短期留学生を引き受けています。

国際的に活躍できる技術者となるためには、英語力だけでなく、様々な世界事情、国際関係を理解しておくことが重要です。そこで熊本キャンパスでは、世界と日本の関わり、国際社会と自分との関わりについて理解を深めるため、シンガポールから講師をお迎えし、グローバルシチズンシップに関する特別講義を一週間行ってもらいました。このような講義は本校のカリキュラムに正規に設定されてはいませんが、学生にとってとても良い刺激となったようです。

その他、教育GPのプログラムでは、香港およびシンガポールでそれぞれ2週間の研修を行いました。このプログラムは英語研修や文化交流のほか、ものづくり大会や技術発表会などの技術交流などから構成されており、どちらの研修も充実したものとなりました。



八代キャンパスの取り組み

国際交流委員長

森内 勉

国際交流委員会の活動の柱は、外国人留学生の修学と生活の支援及び国外の教育・研究機関等との学生と教職員の学術・文化交流の企画と運営です。その目的はグローバルな世界で活躍できる技術者を育てること及び友好国の人材養成の支援にあります。外国人留学生は日本政府が奨学生として採用した国費留学生とマレーシア政府派遣の留学生を、昭和58年度から平成22年度まで77名受け入れました。これまで71人が卒業し、内40人が本校専攻科や国立大学への進学、31名が主に母国にある日系企業へ就職しました。本校の学生が肌で異文化に接することや、生きた英語によるコミュニケーションを体験する場は多くないことから、アメリカ合衆国、シンガポールおよびオーストラリアでの語学研修及びシンガポール等での異文化を体験する研修旅行を企画すると共に、本キャンパスを訪れたシンガポールポリテクニクや中国北海学院生の研修旅行を支援し、訪問学生との交流の場を通して、本校学生の国際的感覚の醸成と英語によるコミュニケーション能力の育成に努めています。



学生会役員と中国北海学院生の交流会
平成22年8月

■ 「ものづくりキャンプ in 香港」に参加して

電子制御工学科 3年
牧野 真吾



高専卒業後の活躍の場が世界各地であるため、英語によるコミュニケーション能力と訪問国の文化を理解することが求められています。本研修に参加することで、英語のスキルアップばかりではなく、学生のうちから異文化に触れ、自己の発見や成長につながると考えました。

約2週間の研修期間では、前半に香港の学生と共同でライントレースロボットを製作し、後半に英語の授業を受けました。現地の学生との食事中や香港の街を散策しながら、お互いのことや文化などについて語り合いました。私のつたない英語での会話も、意思の疎通がとれたときの喜びは言葉では言い尽くせません。

今回の経験から、自分自身のことを見つめ直すきっかけになり、何事にも挑戦する積極性が大切だと感じました。もっと多くのものに触れて成長したいと考えています。

最後に、このような貴重な経験をさせて頂くにあたり、香港も含めてお世話になった皆様方に感謝申し上げます。

■ 英語キャンプ参加

生物工学科 3年
合志 智典



私は英語キャンプを通してたくさんの貴重な体験ができました。

英語キャンプ先であるシンガポールポリテクニクの授業では、自分の住んでいる地域の紹介や映画を鑑賞して考えたことを英語で発表しました。どれも普段受けている授業と違うもので、積極性や自主性が求められるものでした。また、パナソニックとキッコーマンの工場見学があり、自分の将来について考える機会を持つことが出来ました。放課後や休日には観光もして、マーライオンを見たりし、珍しいフルーツなども食べました。英語キャンプの中で、シンガポールの学生達と交流をし、それぞれの文化、考え方の違いについて多くの発見がありました。このキャンプで、英語について、シンガポールの文化について、自分の将来について多くのことを学ぶことができました。この英語キャンプで学んだことを、これからの学生生活に生かしていきたいと思いました。

■ 私の留学体験記

電子制御工学科 5年
北島 千裕



私は、5月から8月までテマセクポリテクニク(シンガポール)に留学しました。テマセクポリテクニクでは授業が英語で行われ、日本と違った授業を経験することができ、とても刺激的でした。また、プロジェクトチームにも参加でき、現地学生と一緒に研究や開発に携わる事ができました。ホームステイ先でも、ホストファミリーと一緒にドラマを見たり、時々買い物に行ったり、散歩したりと、毎日充実した日々を過ごしました。

今、私はオウル応用科学大学(フィンランド)にいます。こちらでも授業やプロジェクト活動に参加しています。9月中は、短期のフィンランド語の授業にも参加できました。フィンランドでは学生寮に住むことができ、チェコ人二人とギリシャ人一人と私の四人暮らしを楽しんでいます。

今回留学して、生活習慣や考え方の違いに驚いたり、自分の頼りなさに気づいたり、勉強以外の事も知ることが出来て良かったです。残りの留学期間も、有意義に過ごしていこうと思います。

■ 国際交流に参加して

情報電子工学科 5年
宮原 真雄
吉本 堅尊



私たちは9月12日から17日までアジアの学生高専体験プログラムに参加しました。

宮原真雄さん 吉本堅尊さん

このプログラムは、アジアの学校と高専機構との交流を深めるために行われました。参加した国は日本、韓国、中国、フィリピン、モンゴル、シンガポール、台湾です。みんな自分の学校について、英語でプレゼンしたり、沖縄と熊本の観光をしたりしました。英語でコミュニケーションをとる上で、上手く文章で表現できなくとも、話そうとする積極性が大事だと強く感じました。このときに知り合った海外の学生達とは今も交流があります。

高専最後の夏休みに貴重な体験をすることができました。



■ 韓国研修旅行

電子工学科 4年 小野原 昂志

福岡空港から飛行機で約1時間。まず驚いたのはインチョン空港の広さでした。周りを見回すと、ハングル文字や英語で書かれた案内しかなく遂に韓国に来たのかと実感しました。霞がかかってよく見えませんでした。時々ニュースで話題になる北朝鮮を展望台から見ることができました。国境沿いに設けられた歩哨台や、兵士を見ると南北問題について改めて感じる事ができました。

サムソン電子やデジタルパビリオンの見学では4Dや直感的操作ができる機器など近未来を体験することができました。班別でのソウル市内見学も充実して楽しかったです。

昼に唐辛子で真赤に染まった地元料理ブルコギも食べました。会話集を片手に話をした料亭のおばちゃんも、とても面白い人で楽しい一時でした。

最後に訪れた63シティタワーから見た夜景も素晴らしい眺めでした。

研修時間を大幅にオーバーしましたが、もう少し時間が欲しかったです。



■ 勉強になったテマセク学生との交流

情報通信工学科 4年 野田 修平

今回の研修旅行は私にとって初めての海外旅行だった。顔も話す言語も違う環境にいることを新鮮に感じた。

初日のシンガポールの食文化の違いには戸惑いを感じたが、これがシンガポールか！と根強く印象に残っている。景観は小国と思えない不釣り合いな高層ビルが立ち並び、過去に見たことのない光景だったので驚嘆した。それを見下ろす世界最高峰の観覧車にも乗ることができ、貴重な体験となった。

4日間のメインはテマセクの学生との交流であった。不器用な英語だったが、意志疎通ができたことは自信になった。会話をしてみると考え方は同年代の私たちとさほど変わらなかった。ただ彼らのネイティブの英語を聞き取るのは困難だった。こんなことならスピードラーニングを聞いていればよかったと後悔した。一日共にグループ行動をしたことにより言葉の一方通行になるときもあったが、彼らへの信頼感は深まった。

最終日に空港まで見送りにきてくれたときにはすごく感動した。今でも彼らとはfacebookで繋がっている。

■ 研修旅行を終えて

情報工学科 4年 宮本 洋孝

私は今まで海外旅行を経験したことがなかった。シンガポールで初めて見る海外の景色は、日本では見たことのないような街並みや超高層ビル群が広がっていて驚いた。ホテルの部屋から外に出ると様々な人種の人々が行きかい、また街には違った国柄の風景がいくつもあり、食においても様々な種類の料理がフードコートに並び、シンガポールは多種多様な国の文化によって築き上げられていると感じ、その国際的な文化に触れる体験に飽きることがなかった。



中でも印象に残ったことはTP（テマセクポリテクニク）の学生との交流である。私は英語が特に苦手だった。交流の初日は自分から英語で話しかけられず、その夜は不安で仕方なかった。しかし気持ちを切り替えて、明日からは自分から積極的に話し、コミュニケーションを楽しもうと強く思った。それから自分が感じたことや疑問に思ったことを積極的に英語で話してコミュニケーションを楽しんだ。今回の交流を通して、英語の楽しさを知ることができ、今まで苦手だった英語を克服する良いきっかけとなった。



■ 全国高専大会で優勝して (水泳部) 情報電子工学科 2年 高野 恵里奈

今年の全国高専大会は8月22日に静岡県富士市であり、熊本高専八代キャンパスからは選手4人マネージャー1人で出場しました。

100M平泳ぎに出場し予選は2位通過でした。予選1位の子は1年生で、どうしても負けたくなくて決勝ではなんとか0.2秒差で優勝することができました。レースが終わって先輩たちに、ここまで緊張したレースは初めてだったと言われて思わず笑ってしまいました(笑) 卒業した先輩たちも応援にきてくれて嬉しかったです！来年は3年連続優勝して特別表彰を受けたいです。

八代キャンパスは少ない人数だったにも関わらず、応援はどこの高専にも負けてないし、団体5位入賞を果たしました。ただ、去年より出場した人数がとて少なく寂しかったので、来年は部員みんなで出場できるように、またこれから頑張っていきたいです。



■ 念願の個人優勝 (柔道部) 電子制御工学科 5年 村口 勇

「来年こそは優勝だ!!」と言い続け、5年目にして念願でもあった全国高専柔道大会での個人優勝を果たすことができました。1年生の時には1回戦敗退、4年生の時には準優勝だっただけにとても嬉しく思います。この結果を残すことができたのも、柔道部の顧問である清田先生、大田先生、寺田先生を始めとして、柔道部の部員やそのご家族の皆さん、また私の両親など多くの方々のご支援や応援があったからです。優勝したことで少しでも恩返しができ良かったです。

しかし団体では惜しくも、九州地区で3位に終わってしまったことが残念でなりません。後輩には是非、団体での優勝を果たして欲しいと思います。現在、柔道部には二段の段位を持つ部員が二人もいます。彼らに指導してもらえば、たとえ素人の方でも半年で黒帯が取れます。是非、我が柔道部に入部して下さい。

話が少々脱線しましたが、柔道を10年間やって最後に良い思い出ができました。応援して下さいった皆さん、ありがとうございました。



■ 全国大会に出場して (バドミントン部) 土木建築工学科 5年 山口 祐佳

今年の全国高専大会は、三重県鈴鹿市であり、私にとってとても特別な思いで出場した大会でした。その理由は、今までバドミントンを続けてきてこれが最後の大きな大会であるとともに、高専生活最後の大会だからです。そのため、練習も今までで一番頑張ったと思います。残念ながら、ダブルスはベスト8でしたが団体3位とシングルス準優勝という結果が残せました。特に、団体戦で入賞したのは初めてだったのでとても嬉しかったです。

最後の大会でこのような、結果が残せたのも、マネージャー、男子部員、顧問の先生方、保護者、友人たちの応援やサポートがあったからだと思います。そして、今まで一緒に戦ってくれたメンバーたちのおかげでもあると思います。本当にありがとうございました。部員達には来年も全国大会を目指して頑張ってもらいたいと思います。



■ さまざまな校外活動を通じて

(the plastic arts)
土木建築工学科 3年
大重 岬

私達は地域の方と協力しながら、八代中心市街地の活性化などに取り組んできました。販売用貸出ワゴン「Machi★Mini shop」の設計・制作や、「シネマタウン●やつしろ街中映画祭」、「秋の彦一」、「八代の建築家展+熊本高専の建築展」、「やつしろハロウィンフェスタ」のスタッフなど、長期間にわたり放課後や休日を利用して活動しました。その活動の中で、様々な人たちと関わりあいながら楽しいことも大変なことも、より強い達成感と満足感へと繋がっていききました。現在は依頼を受けた市内店舗の看板設計・制作、3月の新幹線全線開通イベントの準備に取り組んでいます。

また熊本県おもてなし事業「流木アート」や、わいわい工作わくわく実験ひろば「モダンチェアのミニチュアづくり」、代陽小学校での「オリジナルファイル作り」など子ども向け工作教室も行ってきました。

これからもthe plastic artsに頼んでよかった、また一緒に活動していきたいと思って頂けるよう頑張ります。



■ 西日本高専弓道大会を終えて

(弓道部)
情報工学科 4年
杉本 優

今年度の西日本高専弓道大会は、本校熊本キャンパスを主管校として7月植木弓道場にて開かれました。熊本キャンパスは見事にアベック優勝を果たすことができました。特に女子は初優勝ということで、自分のこと以上に喜んだのを覚えています。また男子は、8月に行われた通信大会でも団体優勝を果たし、3連覇を成し遂げました。

これらの成績をあげることができたのは、普段の練習はもちろんですが、1番の理由は仲間たちとのチームワークを高めることが出来たからだと思います。練習中真剣に取り組む一方で、練習内容を楽しめるものにしたたり、練習の合間に会話を楽しんだりするなど、メリハリをつけることで楽しく充実した内容の練習を行うことが出来ました。また、部員同士がお互いに練習にくるよう呼びかけることによって、全員が弓道部の一員であるという意識を高め、団結力を向上させることが出来ました。

自分たちが他高専に対して随一であると自負しているのは、膨大な練習量と、「取り組む時の意識」です。練習量はともかく、何においても「取り組む時の意識」はとても大切なものだと思います。それに重点をおいてきました。また、「なぜそうなるのか」という探究心、「もっと高度なところへ」という向上心も意識してきました。勉強にしても「公式を暗記して、問題を解いて答え合わせをする」のでは、根本的なところを理解することが出来ません。「なぜこの公式が必要なのか」を知ること、様々な応用することが出来ます。

これまで多くの大会に出場し、弓道というスポーツに携わることによって得たものは、社会に出てでも通用する非常に重要なことだったと考えています。将来社会にでた際、与えられた仕事だけをこなすだけでなく、「今自分がこの組織に求められていることは何か」、「もっと自分から取り組むことが出来る仕事はないか」という姿勢は、周りの人間を助け、より高度なところへ進むことにつながるのではないかと思います。

大会の運営に尽力いただいた教職員の皆様や八代キャンパスの弓道部の皆様に感謝します。



■ 放送コンテストを終えて

(放送部)
情報通信工学科 3年
西川 宏明

私達放送広報委員会は、テレビドラマ部門、ラジオドラマ部門共に県大会を突破し、NHK全国放送コンテスト全国大会に出場することができました。

ドキュメント、研究発表、朗読の部門では、全国大会に出場することはできませんでしたが、どの部門も多大な努力を必要としました。私はテレビドラマ部門を担当しましたが、テレビドラマ部門だけでもシナリオ・絵コンテの作成、撮影、アフレコ、環境音・効果音の収録、編集、BGMの選曲、著作権処理など、膨大な数の作業を要するものでした。その努力を経て、テレビドラマ、ラジオドラマ部門は全国大会に出場しました。全国大会では、数百校もの高校が集い、何百という作品が発表されました。私は全国から集まったその作品のシナリオ構成、編集技術、演技の素晴らしさに圧倒され、全国大会のレベルの高さを実感しました。決勝大会に進むことはできませんでしたが、全国大会の作品を見て、沢山の事を学びました。



■ 全国高専ロボットコンテスト

(ロボコン部)
電子制御工学科 3年
高山 幸哉



今回初めてチームリーダーとして臨んだ大会は、特別賞（東京エレクトロン賞）を受賞したものの、惜しくも初戦敗退という結果に終わりました。

年々難易度が増している高専ロボコンですが、今年の競技課題は「激走！ロボ力車」でした。人力車ならず2足歩行ロボットが人が乗っている乗り物を引っ張り、ゴールまで運ぶ時間を競う競技内容です。また、全国大会に出場するには、スピードだけではなく、アイデアやデザインの総合点で判断されるため、細部までこだわり抜く必要があります。乗り物を牽引するパワーと、その力に耐え得る頑丈な2足歩行ロボットを完成させるため日々努力してきました。我々Bチームが製作したロボットは「秋野サンタさん」と名付け、慌てん坊のサンタクロースをイメージしました。また、乗り物はソリを真似て作り、サンタさんを模した2足歩行ロボットが引っ張るという構成にしました。

来年の競技課題は難易度が増すことが予想され、更なる改良を加え、上位入賞できるマシンを製作するために引き続き努力します。

■ なぜロボコンを続けるか

(ロボコン部)
機械電気工学科 3年
友田 元貴



寝食を忘れるという言葉があるが、シーズン終盤はまさにその状態であった。作業に没頭していると、「アレ、今何時だ？」とか「最後にご飯を食べたのはいつだっけ？」というようなことがよくあった。熱中すると、本当に寝食を忘れるものだ。

熱中することは楽しいことだと考えている人も多いと思うが、チームリーダー兼設計を担当した私にとってこの半年間は、楽しいこと・うれしいことが3割、辛いことが7割だった。今だからこそ言えるが何度もロボコンをやめようと思った。しかし結局、ある日の平日だけ活動をボイコットしただけで、そのほかは日曜以外、毎日活動に参加した（シーズン後半は日曜など関係なしに活動したが）。

たくさんの苦労があつて地区大会で全国行きが決まった時は本当に嬉しかった。久しぶりに人前で泣いた。チームメンバーも涙を流していた。そしてこの時初めて、私は「自分たちのやってきたことは間違っていなかった!!」と思うことができ、解放された気分になったのだった。

辛い半年だったが、終わってみれば、楽しかったと思えてしまう。いい仲間達だったと思えてしまう。そして、私の気持ちはすでに来年に向いている。またロボコンをやりたいと。

■ 全国高専プログラミングコンテスト ～不安から喜びへ～

(プログラミングコンテスト)
情報工学科 5年
吉本 聡美



プロコンへの出場は、正直私にとって、「楽しみ」思えるものではありませんでした。作品を期日までに完成させなければならないというプレッシャーや、当日、会場で行うプレゼンテーションへの緊張感が、日増しに私を不安にさせていたからです。

しかし、実際にプロコンに出場してみても感想は「楽しかった」ということの方が大きいように感じます。会場で、審査員や他高専の方、企業の方に作品について説明をすると、いろんな質問が返ってきます。時には回答に困る質問もありましたが、その質問に対する答えが相手に納得して頂けた時の喜びや、作品を褒めて頂けた時の喜びはとても大きく、そのことが「これまで頑張ってきた甲斐があった」と感じさせてくれました。

プロコンへの参加により、作品を多くの方々に評価して頂いたり、他の高専のみなさんと触れ合うことのできる機会に恵まれ、しかも、特別賞を受賞できたことは、私たちにとって非常に貴重な、良い経験になったと思っています。

■ スーパーコンピューティング コンテスト

(情報システム研究部)
情報電子工学科 3年
岩本 舞
濱崎 瞳



8月23～27日まで、スパコンに参加しました。

今回の本選では、障害物のある広場にレンガを敷き詰める方法が何通りあるかという問題を45分で何問解けるかを競いました。最初問題が配られたときは、こんな問題が解けるのだろうかと思ったりもしましたが、最終日には動くプログラムが出来上がり、本番では約4700問解いて、20チーム中10位に入ることができました。しかし、1位のチームは9万問近くも解いていて、まだまだ勉強不足だな、と痛感させられました。

私たちはもうスパコンに出ることはできませんが、まだ2年間の高専生活が残っています。その中で、もっとアルゴリズムについて学んでいこうと思った大会でした。

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2010

大会名	ロボット名・選手名	大会結果
全国大会 (八代キャンパス)	「スチームランナー」 友田 元貴(3M) 水永 悠介(1MI) 渡辺 勇樹(3M)	・デザイン賞 ・特別賞(東京エレクトロンFE株式会社)
九州・沖縄地区大会 (八代キャンパス)	「スチームランナー」 友田 元貴(3M) 水永 悠介(1MI) 渡辺 勇樹(3M)	・技術賞 ・特別賞(九州電力株式会社、沖縄電力株式会社)
	「RADIANT(ラジアン)」 鈴木 克彰(3M) 藤井 一光(3M) 磯道 晃智(3C)	・アイデア賞
九州・沖縄地区大会 (熊本キャンパス)	「秋野サンタさん」 高山 幸哉(C-3) 持田 草寛(C-3) 早坂 勇哉(T-3)	・特別賞(東京エレクトロン賞)

高専大会等成績一覧 (熊本キャンパス)

平成22年度 全国高等専門学校体育大会

クラブ名	種目名	順位	選手氏名
柔道	90Kg超級	優勝	村口 亮 (C-5)

平成22年度 九州沖縄地区高専体育大会

競技	種目名	順位	選手氏名
陸上	走幅跳	3位	金子 貴博 (E-5)
	三段跳	優勝	金子 貴博 (E-5)
ハンドボール		3位	
柔道	団体	3位	
	90Kg超級	2位	村口 亮 (C-5)
剣道	男子個人	優勝	坂本 拓郎 (E-5)
ラグビーフットボール		準優勝	

第40回 西日本地区高等専門学校弓道大会

種目	順位	選手氏名
男子団体の部	優勝	
女子団体の部	優勝	
男子個人の部	4位	妙玄 翔太 (E-3)

第21回 全国高等専門学校プログラミングコンテスト

種目	賞	選手氏名
自由部門	特別賞	吉本 聡美 (I-5) 星野 渉 (I-5) 宮崎 靖之 (I-5) 三池 伽奈 (I-5)

第32回 全国高等専門学校通信弓道大会

種目	順位	選手氏名
男子団体の部	優勝	
男子個人の部	優勝	才木 龍生 (2-4)
	3位	妙玄 翔太 (E-3)

第16回 西日本地区高等専門学校空手道大会

種目	順位	選手氏名
男子個人形	3位	林田 郁哉 (T-3)
男子個人組手	3位	田代 庸祐 (2-4)
女子個人形	3位	原田 奈央 (1-2)
女子個人組手	2位	

高専大会等成績一覧（八代キャンパス）

第45回 全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	順位	選手氏名
陸上	5000m	3位	谷 亮輔 (5M)
バドミントン	女子団体	3位	本多 千恵 (5B) 鴨池 智耀 (3C) 吉田 あゆみ (4C) 山口 祐佳 (5C)
	女子シングルス	準優勝	山口 祐佳 (5C)
剣道	女子個人	3位	迫本 茜 (2B)
ハンドボール	団体	3位	
水泳	男子100m背泳ぎ	優勝	桑鶴 雄平 (4M)
	男子200m個人メドレー	優勝 (大会新)	桑鶴 雄平 (4M)
	女子100m自由形	8位	池上 史織 (4E)
	女子50m背泳ぎ	3位	池上 史織 (4E)
	女子100m平泳ぎ	優勝 (大会新)	高野 恵里奈 (2E)

第30回 九州地区高専少林寺拳法大会

競技名	種目名	順位	選手氏名
少林寺拳法	単独演武 段外者の部	優秀	浦上 元気 (5C)
	団体演武 有段者の部	優秀	梶 誉志彦 (5B) 松本 優朋 (4C) 米盛 拓也 (4C) 山本 龍之介 (4B) 村坂 貴史 (3M) 富井 沢郎 (3C)
	団体演武 段外者の部	最優秀	松本 宇恭 (2M) 佐藤 史基 (2M) 大川 貴文 (2E) 山下 慎太郎 (2E) 松下 友郁 (2B) 山上 明莉 (2B)

第43回 九州沖縄地区国立高等専門学校 英語弁論大会

競技名	順位	選手氏名
レシテーションの部	2位	水野 翔太 (2B)

第47回 九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種 目 名	順 位	選 手 氏 名
陸 上	5000m	3 位	谷 亮輔 (5M)
	800m	2 位	坂口 貴亮 (3C)
	400m	2 位	坂本 士朗 (3C)
	4×100mリレー (女子)	優勝	早田 雅 (2M)
			井手 香菜美 (1BC)
磯貝 遥子 (3B)			
			金澤 ほのか (2E)
バドミ ント ン	女子団体	準優勝	本多 千恵 (5B)
			鴨池 智耀 (3C)
			吉田 あゆみ (4C)
			山口 祐佳 (5C)
	女子ダブルス	優勝	吉田 あゆみ (4C)
		山口 祐佳 (5C)	
	女子シングルス	優勝	山口 祐佳 (5C)
	女子シングルス	準優勝	吉田 あゆみ (4C)
剣 道	団 体	準優勝	内田 宙斗 (5C)
			池田 竜 (5E)
			大瀬 治毅 (5C)
			川原 勇 (5C)
			大中 貴 (3M)
			松江 弘樹 (3B)
			改働 渉 (2C)
	女子個人	優勝	迫本 茜 (2B)
ハンドボ ール		準優勝	
硬式野球		準優勝	
水 泳	団 体	3 位	
	男子100m背泳ぎ	優勝	桑鶴 雄平 (4M)
	男子200m個人メドレー	優勝(大会新)	桑鶴 雄平 (4M)
	男子400m メドレーリレー	3 位	桑鶴 雄平 (4M)
			松浦 竜弥 (5M)
			園部 拓郎 (2E)
			小林 竜大 (3E)
	男子200m平泳ぎ	準優勝	松浦 竜弥 (5M)
	女子50mバタフライ	3 位	森元 千裕 (1AC)
	女子100m自由形	準優勝	池上 史織 (4E)
女子50m背泳ぎ	優勝	池上 史織 (4E)	
女子100m平泳ぎ	優勝(大会新)	高野 恵里奈 (2E)	
	女子100m平泳ぎ	準優勝	亀田 幸子 (5M)
卓 球	女子ダブルス	3 位	溝口 樹里 (4B)
			山下 詩穂 (3B)

■ 本科インターンシップ ～製品設計に携わって～

電子制御工学科 4年
田中 琢麻



私は、8月下旬に株式会社日立国際電気(小金井工場)へインターンシップに行きました。現在、私は学校でロボコン部に所属しており、ロボットの設計・製作を任されていますが、ロボットの制御回路については殆ど知識がありませんでした。そこで、回路設計について知りたくてインターンシップを希望しました。

実習期間中は驚きの連続でした。FPU(Field Pickup Unit)というマラソン中継等に用いられる無線中継伝送装置の回路設計に関わったのですが、意外にも学校で得た知識や自分の特技等を活かす場面が多かったのです。また、社屋出入口のロック解除が社員証で出来たり、会社の部活動が本格的だったり仕事以外のことでも驚かされました。お世話になった社員の方々がとても優しく、充実した実習を過ごすことができ、とても感謝しています。

今回のインターンシップは、自分に何ができて何が足りないのかを知ることができました。この経験をこれから先の高専生活に役立てていきたいと思っています。

■ 夏季インターンシップに参加して

情報電子工学科 4年
山田 紗矢香



8月下旬の暑さが残る頃、私は総合警備保障株式会社へインターンシップに行きました。前々からセキュリティ技術に興味を抱いていたので参加しましたが、警備会社とだけあって男性の割合が多く参加者の中で私は紅一点でした。

初日に会社の方から「今日の夕食はみんなで食べるように」と言われたのですが、初対面同士とあってどこちなさを感じたのが印象的でした。工業分野では男性の割合が女性より比較的多いので社会に出た際の雰囲気を経験できたと思います。

セキュリティ構築実習ではグループごとに防犯システムの設計やセンサーの接続を行い、問題をメンバー全員で解決することができました。互いの考えを伝え実習をこなすにはコミュニケーションをいかに上手くとれるかが鍵だと思いました。

また学校生活での先生方との接し方や友人と協力して課題を解決するなど様々な経験がこれからの自分を作り上げていくので、これらを大切にしたいと思います。

■ インターンシップを終えて

電子情報システム工学科 1年
大木 義文



私は8月30日から2週間、インターンシップ実習生として株式会社熊本計算センターにお世話になりました。株式会社熊本計算センターは、一般企業や自治体向けソフトウェアを開発し、販売・導入からサポート保守までの一貫した業務を行っている会社です。

実習では、プログラム開発・システム開発企画・PCセットアップ展開など、様々な実習を行いました。プログラム開発においては、公共工事システムの統計調査において、データベースから条件抽出をしてCSVファイルを出力するプログラム及び、そのテスト仕様書を作成しました。

この実習を通して、システムエンジニアの業務について学び、良い製品を開発するためには、コミュニケーション能力がとても重要であると感じました。

また、技術的な面だけでなく、現場の雰囲気を肌で感じる事ができ、とても良い経験になりました。

このような貴重な機会を設けて頂いた株式会社熊本計算センターの方々に、深く御礼申し上げます。

■ インターンシップに参加して

生物システムコース 1年
寶代 剛志



私は8月2日から6日の5日間、九州電力株式会社の苓北発電所の夏期実習に参加しました。趣旨は、技術グループ、保守グループ、発電グループなどの部署で研修を行い、発電所の全体像を掴むというものでした。各部署で担当の方に業務についての説明を受け、実際に現場の見学を行いました。発電、保守、化学、燃料業務から所内の委託設備の業務まで、概要程度ですが広く学ぶことが出来ました。発電所には発電機、ボイラー等の主要設備のほかに多くの付属設備があり、専門的な知識を持つ多くの技術者が連携することにより初めて機能していることがわかりました。

充実した濃い5日間を過ごすことができ、非常に有意義でした。研修期間の一部が前期末試験の日程と重なり、後日追試を受けることになってしまいましたが、十分にその価値があったと思います。この経験を今後の学生生活に活かし、更に勉学、研究に励む所存です。

「原点“皆”帰」への挑戦～

電波祭実行委員長

栃原 直弥

10月の30日と31日の2日間、今年も電波祭を無事開催する事ができました。第9回目の今年のテーマは「原点“皆”帰」。思えばこのテーマを皆に伝えた時から、自分はテキトウなことばかり言ってきたんだなと思います。パンフレットには偉そうに『文化祭のあり方とは』みたいなことを書いていたと思いますが、よくあんな言葉が出てきたなと思います。そもそも、自分は実行委員をすること自体が初めてで「何で実行委員長になれたの？」って感じでした。本当に副委員長をはじめ実行委員全員に迷惑しかかけてないと思います。



さて、何故このテーマにしたのかですが、これは実に単純で「どうせやるんだったら学校の全員で楽しみたい」という自分の我儘を綺麗な感じでまとめただけです。

ここからは電波祭の準備の話です。テキトウで、働かない実行委員長の代わりに、実行委員の皆さんが頑張ってくれました。衛生管理や新設したアトラクション部門の関係で走り回る模擬部門長、ステージイベントの打ち合わせや小道具づくりで夜遅くまで学校に残って準備をするステージイベント部門の人たち、学内外を問わず広報活動に忙しい営業部門。Wステージの為、屋内外にステージを作る設営部門。挙げ始めたらキリがありません。反発しあうこともありましたが、実行委員の皆が働いているところを見ると、自分が委員長で申し訳なく思い、またその頑張りに感動してばかりでした。

しかし、電波祭の1週間前の台風接近。皆が準備で疲労困憊の中、電波祭の開催自体が危ぶまれましたが、学内会議の際の先生方の決断により無事開催が決まりました。このことについては本当に感謝しています。

そして迎えた電波祭1日目。ステージでのイベントや模擬店、アトラクションでの学生の張り切っている姿をみると開催できてよかったなと思いました。2日目はほとんどの飲食店が販売可能な時間の終了よりもだいぶ早く完売してしまい、午後から来場された方にはほとんど何も提供できる物が無い状態となってしまいました。2日間を通して来場者が予想を大幅に上回る過去最高の2,518人だった為、仕方がないのかなとも思っています。

電波祭を終了してみるとやはり問題だらけでした。特に、全体的な統率をとることが自分にはできないため、部門ごとでばらばらになってしまったことは自分の責任だと痛感しています。でも今の自分として精一杯だったと信じ、この結果を受けとめようと思います。来年は10回目という節目でもありますので、自分で言うのもなんですが、来年の実行委員長にはもっとまともな人になってほしいものです。

最後になりましたが、第9回電波祭にかかわったすべての人たちに心より感謝と謝罪をこの場を借りてさせていただきます。こんな自分のわがままに付き合っていただき、本当にありがとうございました。

高専祭を終えて…

高専祭実行委員長 西川 翔

今年の高専のテーマは『SPARK』、意味は活気、輝き、弾けるといった意味です。

みんなが活気に満ち溢れそれぞれが輝き、思いっきりはじけてくれたら…。そういった思いの下、実行委員を始め学生会、先生方や各クラスの学生のみんなが互いに協力しあい今年の高専祭を作り上げていきました。

準備を始めたのは、今年の5月頃からでした。思えば、準備を始めたころから予算のカットがあったり、今年から再開したスポンサー集めなどで、いろいろな問題が次々と発生しましたが、その度にみんなで集まって話し合い、協力し、一つ一つ乗り越えてきました。各企画の実行委員や本部企画の学生会役員、展示の担当の人もそうやって一つ一つの問題を乗り越えていったと思います。

そういったみんなの協力と頑張りのおかげで、今年のめっちゃ良い高専祭が出来上がったんだと思います！！ 自分の中では忘れることのできない、一生に残る思い出になると思います。

最後に、今までサポートしてくださった学生や先生方、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼の言葉とさせていただきたいと思います。

来年はもっと良い高専祭ができそうなので期待しましょう（^ω^） /



■ 地域イノベーションセンター シンポジウムを開催して

地域イノベーションセンター 地域創発事業部副部長
岩下 いずみ



11月5日(金)八代ホワイトパレス(八代市)を会場に今回で2回目となるシンポジウムを「いま、地域資源を活かす!～地域の資源と高専の技術を活かした取組みのご紹介～」のテーマで開催した。シンポジウムでは、徳山高専土木建築工学科大成博文教授による基調講演に引き続き、熊本高専の教員2名が講演を行い、高専の技術を地域資源活用に活かす試みとその実績について紹介した。

大成教授は今話題の「マイクロバブル技術」を応用して通常よりも数倍も大きい野菜の栽培、及び日本酒の醸造等に活用している実績が次々に紹介された。また、食品の味をより良くするだけでなく、今後の世界的な食糧不足も踏まえた食品へのマイクロバブル技術活用にはまだまだ将来性があり、それにまつわる一連の技術開発についても発表された。

熊本キャンパスの大山英典教員が演題「半導体分野における地域連携と人材育成」で企業向け人材育成講座について紹介し、最後に八代キャンパス井山裕文教員が「衝撃波による食品加工の可能性」という講演で、果物など様々な食品加工への応用例を紹介した。

八代キャンパスからは専攻科生も参加し、終始興味深く聴講していた。各講演の後には、企業関係者から活発な質問もあり、またどの参加者も熱心に講演内容をメモするなど、有意義かつ実り多いシンポジウムとなった。

■ PBL・総合教育センター科学技術 教育支援事業部(熊本キャンパス) の取り組み

PBL・総合教育センター 科学技術教育支援事業副部長
山崎 充裕



熊本キャンパスでは、休日や長期休暇を利用して、近隣の小学校や公民館等からの依頼を受け、地域の小中学生を対象とした電子工作・理科実験講座を実施しています。その中で、大勢の高専生が参加し、内容や原理の説明、工作の補助を担当しています。この取り組みは、年齢の近い高専生との交流が参加者に科学をより身近に感じさせる効果があるだけでなく、高専生にとっても普段の学校生活では経験できない学びを提供できています。例えば、電子工作では、電子部品を基板に半田付けする際、1対1で説明をしながらコミュニケーションを図る必要があります。また半田付け作業の中で不具合が生じた場合、高専生は参加者の前でその原因を解明し解決しなければなりません。この経験は各電子部品の特性を体験的に理解し、学習した知識を活用する能力の育成に繋がると考えられます。実際に、参加した高専生から、自らのコミュニケーション能力、知識・技能に不十分さを感じ、向上を心がける必要性を感じたという感想を聞けています。

平成22年4月から11月までの活動に参加した高専生(本科生)は、169名(1年47名、2年31名、3年41名、4年30名、5年20名、うち男子学生118名、女子学生51名)おり、そのうち71名は2回以上参加しています。現在も、1年生を中心に参加希望者数が増加しているところです。活動実績は、次の通りです。

4/17熊本キャンパス体育館(おもしろサイエンスわくわく実験講座)、4/18荒尾総合文化センター(荒尾市少年少女発明クラブ)、7/3嘉島東小学校、嘉島西小学校、7/24科学の祭典in菊池、8/8熊本市大江公民館、熊本市龍田公民館、8/21熊本市博物館(テクノサイエンスキッズ)、8/25熊本市北部公民館、8/26熊本市南部公民館、8/28天草市亀場町公民館、地域交流センターおおくす(JST地域の科学舎推進事業)、9/25川上小学校、9/28西合志中央小学校、11/6-7合志市民まつり、11/14託麻西小学校、11/20合生文化会館、11/27北部東小学校、5月～西合志南中学校(選択理科)

■ 高専 eラーニングワークショップを開催しました

ICT活用学習支援センター ICT教育改善事業部長
小松 一男



講演風景

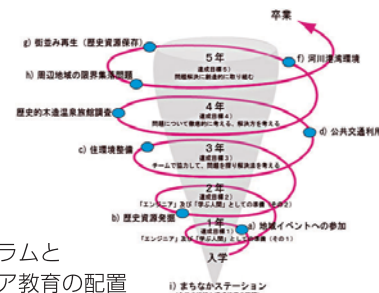
平成22年9月3日(金)第1回高専eラーニングワークショップを、熊本高専八代キャンパスにて開催しましたのでご報告いたします。本ワークショップは、eラーニングの活用事例を各高専の先生方より発表いただき、参加いただいた皆様方と情報交換を行うと共に、高専でのeラーニングの利用推進を目的に開催されました。当日は主に九州地区高専から合計26名お集まり頂き、4名の講師の先生方の講演とその後の情報交換会まで活発な討論が行われました。以下に簡単にそのワークショップのご報告をいたします。

本校校長より開会の挨拶後、小松がITを利用した学生支援の取り組みと現状について講演いたしました。学生の問題点や学生指導記録の情報を電子カルテとして教員間で共有することで、教育的指導を容易にしようというITを利用した支援システムを紹介いたしました。次に本校の島川教員によるピアレビューを利用した学生相互評価についての事例が紹介されました。相互に評価・批評し合う手法はピアレビューと呼ばれ、学生が他の学生のレポートをネット上で査読、評価することによってプラスの学習効果が期待される新しい学習方法です。石川高専の金寺先生には、全国高専が協力しeラーニング教材を集約し共同利用するために開発された高専間教育素材共有システムについてご紹介いただきました。授業や自学自習に役に立つ多様なコンテンツを集積し、データベース化することで全国高専レベルでの教材コンテンツの有効利用をはかろうというものです。最後に株式会社ウェブクラスの様様より、現在開発をすすめているeポートフォリオ機能についての概要紹介がありました。インターネット上で学生、教員それぞれの立場から学習に関する情報をどのように登録、閲覧し管理できるのか、いろいろな事例を紹介して頂きました。

以上簡単にワークショップのご報告でしたが、その他本年度末には一般社会人を対象にしたパソコン入門などのIT講習会も計画しております。

■ 「社会を教室とする新しいエンジニア教育」の開始について

建築社会デザイン工学科
磯田 節子



当学科カリキュラムと
新しいエンジニア教育の配置

建築社会デザイン工学科では、平成19年度～21年度、現代GP「地域温泉街と共同したエンジニア教育」に取り組み、学生・教員共に日奈久温泉という教室の中で多くのことを学ぶことができました。この現代GPの実績もあり、引き続き、文科省より表題のGPが採択され、本年10月より開始しました。

学生たちが学校の教室を飛び出し「社会を教室とする」ことは日奈久での現代GPと共通する重要なテーマです。「社会という教室」は何でもありの総合的な場で、例えば日奈久で取り組んだ「旧農業倉庫の活用方法は？」に対して、地域住民の立場、観光客の立場、費用、環境、法規や構造、車・歩行者の動線、使い勝手、美しさ… etcと、考えるべきことは限りなくあります。学生たちがこれまで学んだ専門知識を総動員させ、同時に新たに知識を獲得しながら、主体的に問題を発見・整理し、解決策を考えていかなければいけません。

高等教育では、教員が一方的に学生に教える従来の方法に対して、「学生自ら知識を獲得していく能力を培う教育」への転換が、近年、大きな「教育の転換」として世界的な動きとなりつつあります。

本年から平成24年度までの3年間、今回はこのような教育方法(PBL: Problem Based Learning)に着目して、建設系カリキュラムの再構築に取り組めます。また今回は、日奈久地区はもとより、八代駅周辺や本町商店街にも軸を置き、八代市全域を対象とした取り組みを進めてまいりたいと思います。現代GP同様、地域の方々、保護者、教職員の方々のご支援をよろしくお願い申し上げます。

早めに取り組もう

熊本キャンパス 教務主事

下塩 義文

(中間試験を終えて)

この高専だよりが配布される頃は、後期中間試験が終わっている頃だと思います。試験が終わると、毎回もう少し早くから試験勉強を始めればよかったと後悔している人も多いのではないかと思います。試験範囲を全部終わることができず試験を受けた人、試験直前に必要な資料がそろっていないのに気が付いた人など、試験に向けてきちんと準備できなかった人がいるのではないのでしょうか。また、一方でゆとりを持って試験に臨んだ人もいることでしょう。この差は、いったいどこからくるのでしょうか。色々な理由があると思いますが、結局試験に向けてきちんと準備する。言い換えれば、締切りまでに仕事を済ませることができなかったということだと思います。私自身も、締切りぎりぎりに仕事を済ませる、あるいは締切りを過ぎてしまうことが少なくありません。

(なぜ、早くできない?)

自分自身の反省も含めて、期限までに仕事を終われない原因を考えると、二つの場合があると思います。一つは、自分がそのやらなければならない仕事から逃げている場合。これが一番多いようです。もう一つは、その課題に対してアイデアが浮かばずに取り組めない場合です。最初の場合は、授業は聞いてもわからないから、後で放課後あるいは家で勉強しようと思って結局できない、レポートは、部活があるから、何か用事があるからとかで締切り前日になるまで先延ばししてしまうなどです。卒研生で、今は就職試験があるからしばらく待ってください。学園祭があるので、終わったらやりますからといった理由をつけた人で、後で熱心に取り組んだ人はいません。いろいろな理由は、結局自分が先延ばししていることの言い訳になっているのではないかと思います。これは、自分で努力すれば少しずつでも改善されていくと思います。問題は、二つ目の場合です。これはなかなか解決が難しいのですが、それでも大部分は締切りになると何とか出来上がるのです。この原因としては、まじめにきちんとしたレポートを作成しようとして答えが見つからず、取りかかれないという場合が多いと思います。そのような場合は、とりあえず仕上げてみよう、途中まででもいいから書いてみようという取り組みが大事だと思います。完全なパソコンというのはありません。毎年、性能が良くなっていきます。レポートも完全なものはありません。遅れる人はとりあえず、自分のできる範囲でいいので完成させてみるというのではないのでしょうか。一通りの形ができるとそれをより良いものに改善していくことができます。

(その瞬間を大事にしよう)

自分で努力すれば何とかなるとはいっても、やはり人間弱いものなので、先延ばしにしてしまいがちです。高専の勉強、特に高学年の勉強は毎日少しずつやらないと、まとめてやることは難しいと思います。あとで勉強しようと思わず、その場で授業を集中して聞くようにするとよく理解できるようになると思います。実験レポートも実験の終わった日に書くと、機材や手順をよく覚えていて書きやすいと思います。研究事項を調べる余裕もできます。理由をつけて先延ばしせず、できるだけ早く手を付けるようにしましょう。もっとも、4年生くらいになると、前もって仕事を済ませることができるようになってくると思います。また、そのような対応ができていないと、上級生まで進級して来れません。低学年のうちはまだ慣れていないかも知れませんが、少しずつ対応できるようにして、ゆとりのある学生生活を送ってください。そうすれば、年度末の進級も苦勞せずに済むと思います。

ぜひ、何事にもちょっと早めの準備を心がけてみてください。



高専祭等を終えて

八代キャンパス 学生主事 池田 直光

学生主体の最大のイベントである高専祭を無事に終わることができ、ほっとしているところです。これまでの高専体育大会をはじめ高専祭までの主だった行事について振り返ってみたいと思います。

今年の全国高専体育大会は、5つのクラブが九州大会を勝ち進み、出場を果たしました。そこでは水泳部の4M桑鶴君と2E高野さんが大会新記録で優勝を飾るなど、全員が素晴らしい成績を残しました。また、先日11月には、陸上部の5M谷君が九州駅伝熊本県チームのメンバーに選ばれ、日奈久ー芦北間を快走する活躍を見せてくれました。一方、文化系では、情報システム研究部が8月の高校生スーパーコンピューティングコンテスト、10月の高専プログラミングコンテストおよび11月のパソコン甲子園で予選を突破し、3度の全国大会出場を果たしています。さらに、10月のロボコン九州大会では、Aチームが技術賞・特別賞をW受賞し、15年ぶりに全国大会出場を決めました。Bチームもアイデア賞を受賞しており、確実にメンバーの実力がアップしているようです。今後の活躍が楽しみです。

八代キャンパスの高専祭は“SPARK”というテーマで行われました。11月5日の前夜祭に始まり、11月6、7日の本祭を経て、11月8日の体育的イベントで幕を閉じています。期間中は天候にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。時間が許す限り展示、イベントを見ましたが、教室では見られない生き生きとした表情が随所に見られ、日ごろ目にできない一面が見えてとてもよかったと思います。学生各自が、それぞれに「SPARK」輝いていました。西川実行委員長はじめ、実行委員のみなさんご苦労様でした。みんなをまとめることは大変だったかと思いますが、同時にある種の達成感も感じたのではないのでしょうか。机の上の勉強だけでなく、みんなが一つのことをやり遂げる過程を経験したことは、生きた社会勉強の場になったと思います。

現在、学生たちは後期中間試験に向けて頑張っているところです(執筆時11月中旬)。気持ちを切り替えてメリハリの利いた学園生活を送ってほしいと願っています。



新たな寮生像について

熊本キャンパス 明和寮 寮務主事 伊藤 利明

近年の寮務委員会の取り組みは、一年生の退寮者を減らすために、従来のしきたりや指導体制を見直し、改善していくことでした。今年度の寮務委員会の目標には、「innovation」(刷新)を掲げて、前寮務委員会で熟考された指導方針を実行に移しています。幸いにして、今年度はまだ一、二年生の退寮者は一人も出ておりません。

しかし、変化を伴うときには軋轢が生じるものです。上級生からは挨拶がなくなっている、「上下関係」が崩れてきているなどの不満の声が上がっているのも事実です。上級生は、「指導」の名の下に理不尽な要求にも耐えてきましたので、自分たちのやってきたことが無意味だったと否定されているような気持ちを抱くのはよく分かります。私たち教員も血気盛んな年頃の男子寮生を管理していくために、寮内の「上下関係」を利用してきたことは否めません。しかし、毎年入寮した一年生の半数以上が退寮していく現状は、他高専と比べて特異な状況です。

私の理想とする「上下関係」は「面従腹背」ではなく信頼敬愛しあえる関係です。上級生が模範となる生活をし、下級生の面倒を見てやる。下級生はそういう先輩に憧れ、見倣おうとする。そういう「上下関係」に変えていこうと考えています。唯々諾々(いいだくだく)と従うのではなく、自分の考えを深化させ、批判精神を持って行動する「不羈独立(ふきどくりつ)」の精神をもった寮生を育てていきたいと思っています。「不羈独立」は明治期の日本で保守・革新問わず目指された国家像・人間像でした。これは、一歩間違えれば寮の集団生活の秩序を破壊し、教員への反抗を生む諸刃(もろは)の剣ですが、それを良い方向に導いていくのが我々の使命だと思っています。

幕藩体制を守ろうとした新選組、倒幕を目指した坂本龍馬や高杉晋作など、それぞれの理想とする国家観を夢見て活動し、それぞれに大義がありました。明和寮の改革は緒についたばかりですので、評価するにはもう少しお時間をいただきたく存じます。



■ JABEE継続認定の实地審査を終えて

熊本キャンパス JABEE委員会委員長
清田 公保

日本技術者教育認定機構（以降、JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education）は技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う機関で、高等教育機関で行なわれている教育活動の品質が国際的に満足すべきレベルにあること、その教育成果が技術者として活動するために必要な知識や能力として到達しているかどうか（Outcomes）を審査します。

熊本キャンパスでは、電子情報システム工学専攻および制御情報システム工学専攻の「電子・情報技術応用工学コース」が2005年度から認定を受け、2009年度に5年間の認定期間を満了しました。

このため今年5月に、JABEEを継続するための継続認定の申請を行いました。JABEEの認定には、各教育機関が定めた独自の教育理念と教育目標を広く公開し、教育プログラムや教育手法の適性と、教育目標の達成に必要なカリキュラムにおける評価方法、組織や継続的な改善を行うシステムの存在など多岐にわたる審査を受ける必要があります。

このJABEEの实地審査が平成22年10月25日から26日の2日間にわたり熊本キャンパスで実施されました。实地審査ではオブザーバーを含む5名の審査チームがJABEEから派遣され、事前に提出した自己点検書に基づき、試験の答案の記録やシラバスにおける評価の実施状況など、学生や教員の面談を含め、詳細な事実確認が行われました。審査の最終結果は、分野別審査委員会の審議の後、審査報告書により通知される予定ですが、概ね良好の評価を得ることができました。

实地審査に協力していただいた学生の皆さんをはじめ、教職員の方々には多大なご支援とご協力をいただきました。JABEE委員会を代表して心より感謝いたします。委員会では、今回の審査をとおりて指摘された改善項目を審議し、さらなる教育プログラムの質の向上を目指して活動していく予定です。教育改善に向けて、引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



■ JABEE受審を終えて

八代キャンパス 専攻長
木場 信一郎

今回のJABEE受審は、新規審査時の審査結果に対して、JABEEの各基準を満たす教育研究の質の保証や継続的な改善への取り組みについて、その後の進展を審査される継続審査での受審でした。

新規審査では、JABEEの基準に沿うようなカリキュラムの大幅な改訂や、教育研究の質の保証、受審対象である新カリキュラムの同等性を念頭にいた証拠資料の整備などと並行して、受審自体の準備を進めることが求められました。

継続審査では、“「生産システム工学」教育プログラムが目標とする技術者教育の実践と継続的な改善の仕組みが、さらに高いレベルの教育研究の質の保証に向かって機能しているか”について、認定後5年間の実績を証明する証拠資料を基に準備するという方針で、受審に臨みました。

この点で、新規審査時に整備された点検資料に加えて、証拠資料の整備体制が出来上がっていたことは、今回の準備作業をスムーズに運ぶために大きな助けとなりました。

また、JABEE認定された教育プログラムの中で、平成21年10月の高度化再編という組織的な変革を、どのように連続させ、また継続的な向上へのステップに位置付け、取り扱うかについても、学校長、WGメンバー及び関係各位のご協力により、審査チームからの大きな誤認や指摘に繋がるようなことはなく、審査が進んでいるというところで、ご勘弁願いたいと思います。

では末筆ではありますが、JABEE審査時に快く面談者をお引き受けいただきましたみなさんを含むOB・OGのみなさん、学生・保護者のみなさんへ、その後の審査は順調に手続きが進んでおりますことをご報告申し上げ、またご協力に深く感謝申し上げます。



■ 溶液化学の研究 ～液体構造と水素結合～

熊本キャンパス 共通教育科
松上 優

みなさんは「化学」という学問を、少なからず一度は勉強したことがあると思います。中には小さい頃から「化学」に興味を持ち、「大好きだった」という方から「化学」は「覚えることが多い」ので嫌いだと言う方まで様々だと思います。私は熊本高専の熊本キャンパスで



1, 2年生に対して化学の授業を担当しています。

高専の教員は単に教育だけを行っているわけではなく、自分の専門分野の研究も行っており、本稿ではその研究内容について、できるだけ分かりやすく紹介したいと思います。

私は、「溶液化学」と呼ばれる分野の研究を行っています。ほとんどの方が「溶液化学って何?」、「聞いたことない」と思われる方がほとんどだと思います。「溶液化学」とは、「溶液中の物質のふるまいをとりあつかう化学の分野」であり、私はその中でも「液体の構造」や「溶液中の分子間の水素結合」を中心に研究を行っています。例として水について考えてみましょう。水は、私たちの生活において最も身近な物質であり、人間の体のほとんどが水で構成されています(体重の70%～80%)。したがって、水なしでは人間は生きていくことができないことが誰もが理解できます。なぜならば、人間の体内に存在するタンパク質やDNAなどが立体構造を維持するために水が必要不可欠だからです。もし、人間の体内の水を他の液体に変えたとなると、タンパク質やDNAは正しい立体構造を保つことができなくなります。言い換えると、タンパク質やDNAが持っている機能が壊れることを意味しており、人間は生きていくことができないということです。タンパク質やDNAが立体構造を維持できるのは、それらを水分子が取り囲み、水素結合を形成しているためです。(勿論タンパク質の分子内やDNA間の水素結合も理由の一つである。)このように、人間の体も溶液化学という分野と深い関わりがあります。難しい例だったかもしれませんが、液体中の分子間の水素結合を理解し、液体の構造を明らかにすることで、タンパク質の機能や化学反応場を正しく理解できます。地味な研究だと思われたかもしれませんが、これからも溶液化学の研究を継続していきたいと思っています。

■ Webを中心とした3つの研究 ～色覚、SNS、iPhone/iPad～

熊本キャンパス 情報通信エレクトロニクス工学科
永田 和生



私の研究室では、現在3つのテーマに取り組んでいます。

1つ目は「Webコンテンツの色覚バリアフリー化」です。日本人男性の約5%は色弱であると言われており、彼らは少なからず不便を感じています。このテーマでは、ホームページの“色”を、色弱の方にも使いやすいよう自動変換する仕組みを作るための調査・研究を行っています。

2つ目は「組織(学校)におけるSNS(Social Network Service)の活用」です。SNSは、mixiやTwitterに代表される“インターネット上で誰かとコミュニケーションする”サービスのことで、近年新たなコミュニケーションツールとして注目が集まっています。このSNSを、例えば学校での一斉連絡などに活用できないかと着目し、今年度から卒業研究として取り組んでいます。

3つ目は、「iPhone / iPadの教育活用」です。本校でもiPhoneやiPadを利用している学生が増えています。その最たる特徴は、指で画面を触ることによって直感的に操作できる、ということです。この特徴を、電子教材や学習支援、教員の授業支援に活用しようと考えています。

また、研究テーマとしてコミュニケーションを取り扱う以上、人間同士の生身のコミュニケーション能力も高められるような研究室にすべく、学生達と侃々諤々、楽しく研究に取り組んでいます。

3D-CAD/CAE/CAM プロジェクト

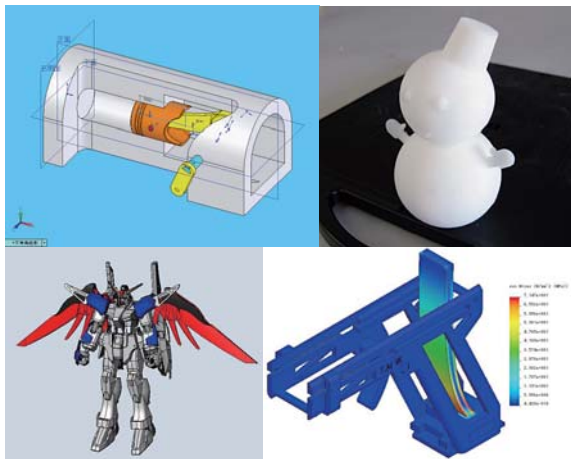
八代キャンパス 機械知能システム工学科
田中 裕一

日本のものづくりを支えてきたのは、高品質かつ低コストという強い競争力です。環境の変化に伴い、今後もグローバルにものづくりを続けていくためには、3次元CAD/CAE/CAM技術を活用し、初期段階から設計者以外の人も加わって、基本デザイン・要素技術・生産技術、そして商品としての検討を行い、開発サイクルを短縮することが必要です。特に、自動車・電気電子部品産業等においては、基準となる3D-CADシステムによる設計の標準化が進んでおり、事業拡大・新規参入のためには、これらの技術に対応できることが不可欠です。

本プロジェクトは、こうした部品産業への進出を計画している地元企業の技術ニーズとの共同研究・受託研究・技術相談等に対応するために立ち上げたものです。

本プロジェクトではまた、これらの地元企業の技術者を対象にした人材育成事業(社会人講座)も実施して、若手エンジニアの育成・技術習得の場を提供しています。今年も10/2からの毎土曜、計10回、受講生33名を迎えて開講しました。本講座は、補助員として参加する学生たちにとっても、CAD技術修得の絶好の機会だと感じています。

なお、本プロジェクトを中心に、授業でも3D-CAD/CAE/CAM技術の導入を図っており、学外の設計造形コンテストやデザインコンテストへの参加も開始しています。学生諸君の積極的なチャレンジを期待しています。



バイオ・ケミカルプロジェクト

八代キャンパス 生物化学システム工学科
木幡 進

本プロジェクトでは、熊本県南地域の企業や官公庁から受けた技術相談を契機として、「地域の生物資源等の活用」に関する研究活動を進めています。

これまでに、「馬油や馬アキレス腱タンパク由来低分子コラーゲンの粉末化」、「青トマト緑色色素の安定化技術」、「温泉水等を利用した稚スッポン飼育システム(遺伝子の検出による性判定実験・光触媒および炭素繊維による排水処理を分担)」、「八代特産柑橘類の成分分析と応用」、「未利用資源海苔の有効利用」などのテーマに取り組んできています。

また、本科の5年生や専攻科の学生たちも、地域と密着した身近な研究テーマとして関心をもち、地域への貢献や問題解決法を意識しながらこれらの研究に取り組んでいます。学科所属教員・技術センター職員・学生が取り組んだ研究成果の一部は、国際食品工業展・アカデミックプラザ、アグリビジネス創出フェア(高専機構知的財産本部ブース；下写真左)、全国高専テクノフォーラム、くまもと産業ビジネスフェア(写真右)、高専シンポジウムで公表しています。

農林水産業・畜産業・食品業などが盛んな熊本県では、これらの産業で排出される廃棄物を「未利用資源」として活用することや、環境負荷物質を適性処理することが望まれています。

プロジェクトでは、分析・バイオ関連機器等の高度化を図りながら、これらの課題解決に寄与することを目指しています。さらに、新学科の態勢が整えば、ICT技術との融合も含めた新しい技術分野への展開も期待されます。



後援会だより

■ 奨学後援会の活動などについて

熊本キャンパス 後援会副会長 榎本 茂弘

熊本電波高専と八代高専は、昨年10月1日、熊本キャンパスと八代キャンパスの2つのキャンパスを持つ熊本高等専門学校として発展的に生まれ変わり、それから1年が過ぎようとしています。後援会については、統合後の後援会運営や会則等についての協議が行われ、今後もそれぞれの後援会がお互いの良いところを取り入れながら、別々の後援会として活動・支援していくことになり、名称も熊本高等専門学校熊本キャンパス奨学後援会、同八代キャンパス後援会ということで、併存していくことになりました。

熊本キャンパスの後援会役員として、総会や役員会、それから八代キャンパス後援会の役員さん方との交流会などに出席・参加させていただきました。

総会においては、多くの保護者の方に参加をいただきました。あらためて、この場をお借りしまして会長をはじめ役員一同、御礼を申し上げます。新たな役員メンバーで北島会長を先頭に学校行事等へのサポートや定時総会時に保護者会員の皆様から提出いただいたアンケートの内容について役員会を通じて学校への要望などを行っています。

7月31日には八代キャンパス後援会役員の方々との交流会が八代市で開かれました。学校からは宮川校長、各キャンパスの神田副校長、齊藤副校長、川崎事務部長、内山総務課長、磯田学生課長に出席いただいて、それぞれの後援会の取り組みなどについて紹介するなど意見交換を行いました。特に、八代キャンパスの役員の方々の印象ですが、学校への信頼と学校のために役に立ちたいという信念というか力強さ、パワーに圧倒されつつも熊本キャンパスのこともPRできたのではないかと思います。

これまで熊本高専と八代高専ともに企業からの求人数も多く、ほぼ100%の就職率を維持しています。厳しい雇用情勢が続く中でも社会に求められる人材・エンジニアを育成してきた実績があります。

これからも熊本キャンパス奨学後援会として学校をできる限りサポートしていきたいと考えておりますので、保護者の皆様におかれましては御理解と御協力をよろしくお願いします。

■ 後援会行事について

八代キャンパス 後援会会長 稲村 由美

日頃より、後援会活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。これまでの後援会行事の活動報告をさせていただきます。

4月30日の総会を終え、現在まで6月・9月・11月と3回の理事会を行っています。7月21日には、学生会との懇談会を行いました。学生会の定例会に参加し、活発な会議風景を見せて頂き、その後質問や要望等の意見交換をいたしました。

7月31日には、熊本キャンパス奨学後援会との懇親会を行いました。8月4日には、楷友会(同窓会)主体のくま川祭り総踊りに参加いたしました。10月8日には、後援会会員による工場見学研修を行い、お菓子の香梅西原工場と九州新幹線熊本総合車両基地を見学いたしました。49名の参加があり、とても有意義な研修となりました。11月6・7日には、高専祭に参加いたしました。後援会ブースに、今年は制服バザー・パネル展示・談話(茶話)コーナーを設け、たくさんの皆さんに来て頂き、制服バザーも好評でした。収益金は全て学生会へ寄付いたしました。

今後の予定としては、3月に卒業祝賀壮行会を計画しております。卒業生・修了生の皆さんの心に残る会になれば・・・と思います。

皆様から何かご意見等ございましたら、後援会のアドレスにお寄せ下さい。

【kouenkai@kumamoto-nct.ac.jp】



■ 第14回 熊本県中学校アイデアロボットコンテストが開催されました

第14回熊本県中学校アイデアロボットコンテストが11月13日(土)に、熊本キャンパス第一体育館に於いて開催されました。県中学校教育研究会技術・家庭科部会が主催の本大会に、今年度から本校が共催参加することとなったもので、県内中学生22校162チーム、460人がロボット製作技術の成果を競いました。

マイコンを利用した自律ロボットの効率的な動作制御プログラムを競う制御部門や、フィールドに散らばったオブジェを制限時間内に回収する自作ロボットで競う授業内部部門のほか、応用部門・映像部門・九州オリジナル部門の計5部門で熱戦が繰り広げられました。

また、御船高校ロボコン部の自律走行ロボットによるデモンストレーションや、熊本キャンパス・ロボコン部による本年度 高専アイデアロボットコンテストに出場した2足歩行ロボットのデモンストレーションも行われました。



■ 夏休み体験ミュージアム「テクノ・サイエンスキッズ」を開催

熊本高専では平成22年8月21日(土)、22日(日)の2日間にわたって、科学の不思議とアイデアものづくりを体験する「テクノ・サイエンスキッズ」を熊本市立博物館及び九州経済産業局と共同で開催しました。

今回は、小中学生に理科・科学に対する関心・興味を持ってもらえるような14のブースを出展しました。

会場の熊本市立博物館には2日間とも大勢の小中学生とその保護者のみなさまにご来場いただきました。独自のデザインで工作を行うブースでは、七色に光るオブジェやペットボトルを使って歩くロボットを、高専生の指導のもと、和気あいあいと作っていく姿が見受けられました。

またコンピュータを搭載して黒線を感知して走るロボットづくりでは部品の組み立てに苦労していましたが、完成したロボットが黒線の上を走った時には歓声が上がりました。



■ 原子力発電所の見学会を実施しました

平成22年度原子力人材育成プログラム事業「原子力研究促進プログラム」(文部科学省)の一環として11月1日(月)に九州電力玄海原子力発電所(佐賀県)、11月9日(火)に川内原子力発電所(鹿児島県)の見学会を実施しました。

初めに原子力発電所に隣接の展示館での様々な説明を受け、その後構内をバスから見学をしました。参加学生は発電所建屋の巨大さに圧倒されていました。内部のもっと詳しい箇所が見学できなくて残念との感想が参加学生よりありましたが、セキュリティ上、やむを得ない措置のようでした。

今回の見学会を通して、原子力やエネルギー、環境等に対する理解が深まり、有意義な体験をすることができ、エネルギーの重要性を再認識した1日でした。

■ 第6回 全国まちづくり会議2010 in 熊本において、優秀賞を受賞しました

NPO日本都市計画家協会主催第6回全国まちづくり会議2010 in 熊本において、建築社会デザイン工学科の学生・教員が出展した日奈久温泉街での活動報告が優秀賞を受賞しました。

この会議は全国でまちづくり活動を行っている行政を含む各種団体や市民、専門家が年に一度、一堂に会し議論・報告・情報交換等を行うイベントです。建築社会デザイン工学科ではその中のポスターセッション(元気まちづくり車座シンポジウム)に日奈久温泉街での教育を通したまちづくり活動について出展しました。これには全国43の団体からの出展があり、来場者の投票によって決められる全国まちづくり賞では、本校が優秀賞を受賞することができました。

■ 「イノベーションジャパン2010 ー大学見本市ー」に出展しました

平成22年9月29日(水)～10月1日(金)、東京国際フォーラムで開催された「イノベーションジャパン2010-大学見本市-」(主催：(独)科学技術振興機構、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構)に、熊本キャンパスより教授 小山善文(地域イノベーションセンター長/人間情報システム工学科)が、『弱視者の確認動作を補助する自立型電子メガネ～View-aidグラス～』を出展しました。本ブースには、多くの来場者が訪れ「View-aidグラス」を実際に使用しながら、研究室の専攻科生2名が研究成果の説明に應對しました。

この「イノベーションジャパン」は、国内の大学等の研究成果と企業シーズを産業界とマッチングすることを目的に開催され、今年で7回目を迎えます。また、今年は、展示会出展者が1分間で研究成果を紹介する「ショートプレゼンテーション」が開催され、企業関係の来場者は、熱心に聞き入っていました。



■ 吹奏楽部が黒石原養護学校との交流会を行いました

9月17日(金)に熊本キャンパス吹奏楽部は本キャンパスと「交流の門」で繋がっている黒石原養護学校との交流会を行いました。リクエストを参考に選曲し「YELL」「宮崎駿アニメファンタジー」「だんご三兄弟」などを演奏し、今年度から新たな顧問として参加された西村教員のバイオリン演奏や、イントロクイズなどのイベントで、交流会は終始和やかに進行しました。以前から黒石原養護学校とは毎年のように交流会を開催してきましたが、前年度はインフルエンザで無念の中止ということもあり、今回は殊更に内容の濃い、思い出に残る交流会となりました。



■ 九州一周駅伝に本校の谷亮輔君が出走しました

今年の九州一周駅伝(10/29金：長崎スタート～11/7日：福岡ゴール)に、本校の陸上部、谷亮輔君(機械電気工学科5年)が、熊本県代表として出走しました。

この九州一周駅伝は、世界最長の駅伝で、10日間、全72区間を24人で走り通す大会です。有名企業の社会人ランナーがひしめく本大会に、大学生ランナーの1人として本校生が選ばれるのは初めてのことです。谷君は、9月に行われた第59回西日本各県対抗九州一周駅伝競走大会の予選会を突破して県代表に選出されたものです。

第1回目の出走は、11/1(月)、本校に近い日奈久～田浦間の国道3号線を走り、区間6位と健闘しました。当日は、本校からも、学校長をはじめ同級生・教職員など数多くの応援団が駆けつけ、力走する谷君に声援を送りました。さらに、11/3(水)は第3区(重富～東国分：鹿児島)、11/6(土)は第7区(椎田～荻田：福岡)で力走しました。(HP：<http://www.nishinippon.co.jp/nsp/ekiden/2010/> 参照)



みんなの声援の中、力走する谷君

■ 熊本キャンパス1号棟と2号棟が全面改修されました

昨年夏から今年春にかけて1号棟(旧校舎棟)と2号棟(旧 電子工学科棟)の全面改修と耐震補強(1号棟のみ)が行われ、今年4月から授業での利用が始まりました。旧校舎は老朽化が進み、建具の故障、内装の瑕疵などが目立っていましたが、見違えるほど綺麗な建物に生まれ変わりました。新しい2つの棟では、1、2年生の共通教育科目、情報通信工学科、電子工学科、情報通信エレクトロニクス工学科の授業や実験が行われます。

また、この改修では新たに指紋認証システムが導入されています。研究室や実験室、パソコン演習室などでは、鍵を使うことなく学生個人の指紋で入室できるようになりました。

新しい学び舎で、ますます技術や人間性の研鑽に励んでくれることを期待しています。



保健室・相談室から

■ 寮健康センターより

学生相談支援員 山下 智子

八代キャンパスに「寮健康センター」が開設されて5年が経ちました。寮生も初めの頃は、緊張した面持ちで来室していましたが、最近は気軽に来ている学生が増加しています。開設日時は、男子寮が月・金曜日の午後4時～7時、女子寮は水曜日の午後4時～7時です。

1回の平均来室者は1～2名、女子の相談割合が高くなっています。相談内容で多いのは健康相談で、「体調が悪いのでどうすればいいですか?」「病院を教えてください」などです。その他にも、寮生活や交友、勉強、進路など様々です。すぐに解決できるような悩みは少なく、継続した支援が必要なものがほとんどです。また、ここ数年は、欠席が数日続く寮生が増加傾向にあり、居室を訪ね生活状況や病院受診の有無などを確認し、保健室や学生相談室と連携しながら支援をおこなっています。

また、若年層の生活習慣の変化による生活習慣病や、10代の人工妊娠中絶率や性感染症の増加などの社会問題への予防的な取組みとして、1年生を対象に寮健康教室を開催しています。1回目は、「生活習慣と睡眠」について、2回目「思春期のからだ」、3回目「妊娠と性感染症」についての講話をしています。

講話終了後のアンケートでは、「規則正しい生活、健康な生活を持続して命を大切にしたい」「自分の悩みが解決できてよかった」「自分の事や相手の事を考える人になっていきたい」などの感想でした。

私自身、思春期という大事な時期にたずさわらせてもらっていることを大事にして、学生が元気な学校生活を送れるように、支援していきたいと思います。



熊本高専 行事予定 12-3月

熊本キャンパス

12月 1日(水) 企業説明会
4日(土) 冬季オープンキャンパス
6日(月) インターンシップ成果報告会
@くまもと県民交流館パレア
9日(木) 県下一斉テスト
23日(木)～1月10日(月) 冬季休業

1月 4日(火)～9日(日) 全国高専体育大会(ラグビー、神戸)
11日(火) 授業開始
22日(土) 本科推薦選抜(入学試験)
26日(水)～2月1日(火) 5年後期定期試験
31日(月)～2月4日(金) 専攻科 後期定期試験

2月 16日(水) 卒業研究発表会
17日(木) 特別研究発表会 専攻科
17日(木)～24日(木) 4年以下後期定期試験
20日(日) 本科学力選抜(入学入試)

3月 7日(月)～8日(火) クラスマッチ
10日(木) 終業式
11日(金) 卒業式・修了式
14日(月) 学年末休業(3月31日まで)

八代キャンパス

12月 22日(水) 3限目授業後、
大掃除、HR、
校長訓話
23日(木)～1月10日(月) 冬季休業

1月 4日(火)～9日(日) 全国高専体育大会(ラグビー、神戸)
11日(火) 授業開始
22日(土) 本科推薦選抜(入学試験)
28日(金) 専攻科特別研究発表会

2月 4日(金)～10日(木) 学年末試験(本科)
1日(火)～8日(火) 学年末試験(専攻科)
20日(日) 本科学力選抜(入試試験)

3月 3日(木) HR、大掃除、終業式
16日(水) 卒業式・修了式

編集後記

今回の高専だより第4号では、国際交流で積極的に活動する学生達の様子、高専大会やロボコン、プロコンで学生達の活躍を紹介することができ、大変うれしく思います。我々教職員も彼らから活力を貰い、熊本高専の益々の発展のために努めていきたいと思ひます。

訂正とお詫び：前号 高専だより第3号 新任教職員紹介の中で、中野光臣教員の氏名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

熊本高専だより 第4号

独立行政法人 国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校

(熊本キャンパス) 〒861-1102 熊本県合志市須屋2659-2
TEL 096-242-2121

(八代キャンパス) 〒866-8501 熊本県八代市平山新町2627
TEL 0965-53-1211

熊本高専ホームページ <http://www.kumamoto-nct.ac.jp/>

総務委員会 平成22年12月 発行